

ヴォリュームアキュライザーの導入 (21)
-IPC 1029 アンプへの適用-

1. 始めに

今回は、TELEFUNKEN L61 を駆動する IPC 1029 アンプのヴォリュームに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴方法

TELEFUNKEN L61 を駆動する IPC 1029 アンプのヴォリュームに VRA-7 を適用し、アナログ音源で試聴していきます。IPC 1029 は、RCA の 6L6 から GEC の KT66 に差し替えています。

IPC 1029 アンプのヴォリュームは小指の先ほどしかありませんが、ここに VRA-7 を貼ります。但し、ヴォリュームの位置取りが悪く、VRA-7 の中心に貼ることができず、両面接着テープを使って VRA-7 の中心から端に寄ったところで貼り付けます。



TELEFUNKEN L61 の最近の状況は下記で報告しています。

LINN LP-12 の再構成(30)

音源は前報(9)で使用したアナログ盤を使用します。

LONDON SLC 1138

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

harmonia mundi(Deutche) KUX-3248-H

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

このシステムは、ゲインが小さく、やや非力でありながら、楚々とした趣で気軽に聴くのに向いています。

IPC 1029 アンプの L/R のヴォリュームに VRA-7 を貼るわけですが、変則的な貼り方で接触面積が小さく効果のほどに懸念があります。

三角帽子は、このシステムでは無理がある音源ですが、切れ味がよくなりスケール感が出てきます。

チェンバロ協奏曲は、これもバロックアンサンブルの分離がよくなり、繊細感も向上します。

ミトマニアは、男女のボーカルに張りがでて、古楽器の質感もリアルになります。

倍賞千恵子は、ボーカルに張りが出てニュアンスの表現が向上し、バックの伴奏も弾みがでます。

当初の懸念に反して、音の分離が向上し、スケール感がでて、スピーカーが一回り大きくなったように感じます。

4. まとめ

TELEFUNKEN L61 を駆動する IPC 1029 アンプのヴォリュームへの VRA-7 の適用は、変則的な貼り方ですが、予想外に大きな効果を示しました。

以上